

第3回滋賀県史編さん会議 議事概要

日 時 令和7年6月3日（火）午後2時00分～3時30分

場 所 滋賀県大津合同庁舎7A会議室

出席者 伊藤委員（副議長・県史編集委員長）、越後委員、岸本委員（議長）、久保田委員、坂根委員、関川委員、中西委員、藤吉委員、船越委員、松田（規）委員、松田（千）委員、松本委員、三宅委員 ※以上、50音順
事務局（公文書館職員）5名

配布資料 別添のとおり

会議概要 以下のとおり

1 開会

挨拶（岸本議長）

2 議題

資料に基づき事務局から説明後、各委員から以下の意見が出された。

(1) 令和6年度編さん事業の実績について

・意見なし

(2) これまでの会議で頂戴した意見への対応状況について

○久保田委員

・2月頃、県立図書館に本を借りに行った際、県史の出張展示「昭和3年の滋賀県食用蛙試食デー」が展示してあった。この会議の要望に素早く対応いただいており、非常に驚いた。私だけでなく他の県民の皆さんも見ておられるようで、県庁の外での取り組みが広がることで、より多くの方々に編さん事業の成果が届いている印象をもった。今後はデジタルコンテンツの充実も、進めていただきたい。

→（事務局）従来から過去の企画展示の資料等は、ウェブサイトで公開してきているが、今後はさらに県史編さんの成果を生かして充実していきたい。

・学校が所蔵するさまざまな資料（学校資料）についても、保存・収集の対象に加えてほしい。

→（事務局）前向きに検討していきたい。

○三宅委員

・長浜の江北図書館での講座・展示など、県史の取り組みが民間に広がっていることはとても大切。今後も少しずつでも対象を広げていただきたい。

→（事務局）湖北だけでなく、今後は湖東・湖西へと広がってほしい。

・県で主催している県内歴史公文書等担当者会議では、どのようなことが課題となったのか。

→（事務局）歴史資料として重要な公文書を将来にわたって保存していく仕組みが必要と思われるので、今後に必要な情報を共有しながら進めていきたいと考えている。

○藤吉委員

- ・歴史のなかの「心に残る人」を伝えるということは、県史のなかでは難しいのかもしれないが、何かしらのアプローチをしていただきたい。

○伊藤委員

- ・県史は歴史の大きな流れを描くものだが、そのなかで県知事や政治家、社会運動家などのさまざまな人物が見える県史にしていきたいと考えている。

○坂根委員

- ・県外で活躍した近江商人だけでなく、県内で商業活動に従事した人たちも積極的に取り上げたい。

○松田（規）委員

- ・江北図書館のような私立図書館だけでなく、市町立図書館とも資料の適切な保存・活用について考えていけるとよいのではないか。

→（事務局）市町の図書館でも様々な地域資料・郷土資料が保存されている。お互いの得手不得手を踏まえながら、積極的に保存・活用を進めていきたい。

○谷口委員

- ・滋賀県では写真美術館のような施設がないが、写真を用いた展示を企画してもよいのではないか。

→（事務局）当館が所蔵している資料のほとんどが文書であるが、戦後のものでは広報課からまとまった写真を受け入れている。それらを生かした展示も検討していきたい。

○伊藤委員

- ・県史の最終刊行年には、『目で見える滋賀県の150年』（仮）を刊行予定。提案いただいた写真展などを開催しながら、必要な資料を集めていけば、順調に刊行できるのではないか。

(3) 滋賀県史のタイトルについて

○三宅委員

- ・事務局が示した「新修 滋賀県史」というタイトルは、他自治体の例をみても、古代から現代までの歴史を書き直す場合にふさわしい。今回の近現代史を対象とする県史が優れた内容であればあるほど、「新修」と付くと（実際は刊行予定がないのに）近世以前の県史への期待が高まってしまうのでは？

○伊藤委員

- ・15年間で本格的な県史を刊行して、こんなにいいものが出せるのであれば、古代から明治維新までのものも出してほしいという要望が高まっていけばありがたい。実際には県の判断になるが、そのような雰囲気をつくりたいとは考えている。

○久保田委員

- ・県史が電子媒体で読めると普及が一気に進む。デジタルではキーワード検索ができたり、調べものをする際に有用。ぜひ実現いただきたい。

→（事務局）他府県の事例を踏まえながら、基本的にはそのような方向で進めていきたいと考えている。

3 閉会